

■成尋 僧。三井寺長吏30年の後、入宋、別離悲しむ母が「成尋阿闍梨母集」を遺し、現地では尊崇された。

じょうじん

・ ・ ・ ・ ・ 1011 = 生。

道長太政大臣1017 = 6歳：三井寺別院の大雲寺入りし、文慶に師事する。これ以前に、父が死去。

三后鼎立・ ・ 1018 = 7歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1020 = 9歳：

藤原道長没・ 1027 = 16歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1029 = 18歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1038 = 27歳：この頃、*大雲寺主、三井寺長吏となる。

・ ・ ・ ・ ・ 1047 = 36歳：

前九年の役始1051 = 40歳：

末法思想始・ 1052 = 41歳：この年、関白藤原頼通が宇治別業を平等院とする。*この頃から、頼通の護持僧を務め、

・ ・ ・ ・ ・ 1056 = 45歳：

治暦莊園整理1065 = 54歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1067 = 56歳：宇治行幸後に病気になった後冷泉天皇と関白藤原頼通の加持・祈祷。

後三条天皇・ 1068 = 57歳：後冷泉天皇は死去し、頼通は回復。大雲寺に帰り、母を招いて近くに住まわせる。

延久莊園整理1069 = 58歳：*母に渡宋・五台山巡礼のことを告げ、

延久陸奥合戦1070 = 59歳：後三条天皇に、渡宋の申文を申請する。

・ ・ ・ ・ ・ 1071 = 60歳：渡宋に向けて出立。備前から筑紫行きに船に乗船と母に手紙。大雲寺から仁和寺に移された母が「成尋阿闍梨母集」の執筆を始め、子が病になった夢を見、自らも病となって回復後、一旦帰京するが、翌日ふたたび出立。備中の新山に翌年の正月まで滞在し、百日の修行。

白河天皇即位1072 = 61歳：安芸国から母に手紙した後、松浦郡壁島で宋の商船に乗り、公的記録「参天台五台山記」の記述を始める。杭州に着き、天台山に向かい、国清寺に滞在後、杭州に帰着。五台山へ向けて出立するが、開封で、太平興国寺伝法院にとどめられ、皇帝の許しを得て、五台山へ向かい、東台を眺めて感激のあまり落涙。開封に帰着。この間、日本では、母が遅れた手紙を受取り、何度も子の夢を見る。

後三条天皇没1073 = 62歳：開封の後苑で祈雨の法を修し、降雨の豊饒を示し、皇帝から善恵大師号が下賜される。開封を出立し、杭州着。日本から迎えに来た一乗房永智と再会する。供僧五人は帰国の途につき、「参天台五台山記」の記述を終了。この間、日本では、母が筑紫人の報で渡宋の様子を知り、まもなく、「成尋阿闍梨母集」の記述が終わり、死去したと考えられる。帰国した供僧が、宋皇帝の金泥法華経を宮中に献上。

藤原頼通没・ 1074 = 63歳：この年、藤原頼通が死去。

・ ・ ・ ・ ・ 1076 = 65歳：この年、源隆国が成尋宛に書状。

・ ・ ・ ・ ・ 1081 = 70歳：没したと伝えられる。